

スポーツを通じた観光による山形県の地域活性化について

～蔵王温泉スキー場に焦点を当てて～

A Study of Area Activation through Sport Tourism

: The Case of Yamagata prefecture

1K08B047-5 押井 周平

指導教員 主査 原田宗彦先生 副査 木村和彦先生

【緒言】

平成 23 年 4 月 1 日時点で山形県の人口は、1,163,148 人で、年少人口割合（15 歳未満）は 12.5%で全国順位は 43 位、老年人口割合（65 歳以上）は 27.0%で全国順位は 5 位である。このように少子高齢化が進んでおり、経済を拡大させることのできる生産年齢人口割合（15～64 歳）が 60.5%で全国順位は 39 位である。そして、山形県観光客数の現状としての報告では、平成 22 年度の県内主要観光地における入込数は総数で 3,943 万人であり、前年度と比較して 241 万人、率にして 5.8%の減少である。平成 21 年度の蔵王への観光客は 1,464,400 人であり、その内訳は県内からが 618,200 人、県外からは 846,200 人である。蔵王内での訪来目的の内訳は、登山客が 252,000 人で、温泉客が 720,000 人、スキー客が 492,400 人である。スキー客は大幅に減少しており、平成 13 年のデータと比べると 284,300 人も減少している。ところが、今年の 3 月に発生した東日本大震災の影響により、3 月以降外国人観光客の足は遠のき、回復の兆しもまだ見えてきていない状態である。

【目的】

観光とスポーツの融合に着目して、山形県地域活性化のため、蔵王温泉スキー場の焦点を当て、山形県、山形市、及び温泉協会の現状と意識について明らかにする事を目的とした。

【方法】

質的研究によって、山形県のツーリズムを司る県庁観光交流課、市役所観光物産課、蔵王温泉観光協会の 3 者に半構造化インタビューを行い、必要に応じて話題の展開の中で質問を加え、質問の順番を変えた。この研究では県庁観光交流課と市役所観光物産課、蔵王温泉観光協会それぞれの意見を聞き出し、今何を考え、何を行おうとしているか、その想いなどに焦点を当てた。

【結果・考察】

この研究で山形県の地域活性化は蔵王温泉スキー場の活性化が周りの地域に波及効果をもたらし、最終的に山形県が活性化することによって繋がる事を考え作成したが、実際に蔵王温泉スキー場が活性化するためには多くの課題があり、その課題を如何に解決するかが山形県全体の活性化に大きく関わってくるとわかった。

【結論】

結論として、スポーツを利用した観光での地域活性化は可能である。なぜなら、現在多くの可能性があり、県や市、観光協会などが挑戦できる点が多く存在するからである。しかし、そのためには山形県庁や、市役所、観光協会だけでなく、県民一人一人が観光から見た山形県を意識する必要がある。県民一人一人が地元で楽しむ事により、他の地域から魅力的に見え、観光地となる。よって、魅力が観光資源となり、観光資源が増える事により、着地型観光が成り立ち、交流人口が増え、地域が活性化する。さらに、地域の魅力を効果的に発信するために、IT を駆使し、現代の情報化社会の波に乗り遅れることのないようにする必要がある。さらに、スポーツを利用した観光で地域を活性化させるためには、魅力作りだけでなく、各々のスポーツに関して経験があり、知識がある必要がある。大会を招致し、運営する際にそのスポーツの知識がなければうまくいくわけがない。だから、人材育成が重要であり、環境づくりが大切になる。そして、どの観光でもリピーターはとても重要であるが、スポーツを利用した観光においても重要となる。如何に、飽きさせず、また来てもらうかが安定した集客に繋がるため、リピーターの確保はスポーツを利用した観光で地域を活性化させるためには必要不可欠である。